

鎌倉の「第九」

平成16年度 鎌倉市民「第九」コンサート

2004年12月19日(日) 15時開演 鎌倉芸術館大ホール

不屈の精神を貫いたベートーヴェンのように 市民の力が大きな感動を呼ぶ...



鎌倉芸術館

KAMAKURA PERFORMING ARTS CENTER

主催: 鎌倉市芸術文化振興財団 協力: 鎌倉音楽クラブ 協賛: JALUX

鎌倉市民「第九」コンサート

リヒャルト・ヴァーグナー：歌劇「タンホイザー」序曲

Richard Wagner: "Tannhäuser" Ouverture

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調 Op.125《合唱》

Ludwig van Beethoven: Symphonie Nr. 9 d-moll Op. 125

- | | |
|---|--|
| 第Ⅰ楽章 アレグロ・マ・ノン・トロポ・ウン・ポーコ・マエストーソ
(快速に、しかし速すぎないように、やや荘厳に)ニ短調 4分の2拍子 | 第Ⅲ楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ
(ゆっくりと、そしてきわめて歌うように)変ロ長調 4分の4拍子 |
| 第Ⅱ楽章 モルト・ヴィヴァーチェ
(きわめて速く、いきいきと)ニ短調 4分の3拍子 | 第Ⅳ楽章 プレスト
(きわめて速く)ニ短調 4分の3拍子 |



小泉ひろし [指揮]

桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、オーボエを鈴木清三各氏に師事。卒業に際し音楽賞を受賞。卒業と同時に東京交響楽団指揮者に就任する。第一回民音指揮者コンクール第2位入賞。1970年ウーレン国立音楽大学に入学、指揮をハンス・スロフスキー、オペラをカール・ウッチェリ、バロック音楽をコゼフ・メルティンの諸氏に師事。71年、72年にオーストリアのオシアハ国際音楽祭でクラーゲンフルト国立交響楽団を指揮。74年にはウーレン・トン・キェンストラ管弦楽団を指揮し好評を得る。卒業に際し、最優秀賞を受賞。94年10月にはメキシコに於ける日本音楽祭に招待され、メキシコ国立交響楽団を指揮し絶賛を博す。大阪シンフォニカーの指揮者を併設期から10年間務め、そのレヴェル・アップに大きく貢献するほか、とくに宗教音楽のジャンルにおいては優れた解釈による格調高い演奏が高く評価されている。現在は、演奏活動の傍ら、東京芸術大学、桐朋学園大学、フェリス学院大学の講師として、後進の指導に当たり、多くの優秀な人材を世に送り出している。

鎌倉交響楽団 [管弦楽]

鎌倉市民によるアマチュア管弦楽団として昭和38年に発足、現在団員120名を超える。春と秋に定期演奏会、3月にファミリーコンサート、鎌倉市の幼稚園協会による園児のための演奏会他、年2回の室内演奏会などを継続して行っている。平成11年には、鎌倉・萩姉妹都市提携20周年を記念して両市で第九演奏会を、平成14年には団創立40周年記念演奏会を春秋2回開催、今年7月には、鎌倉合唱連盟40周年記念イベントに賛助出演を行った。団員の年齢層が学生から高齢者まで幅広く、職業も東京・横浜への通勤者、主婦、医師、教員と多岐であることが特徴である。近年はクラシックの古典に加え近現代の基本的な作品にも計画的に挑戦するとともに、地元鎌倉に密着した活動により力を入れるなど、音楽文化のリード役としての活動を志している。鎌倉市民「第九」コンサートへの参加は3回目となる。

鎌倉市民「第九」コンサート合唱団 [合唱]

今年、公募で集まった市民合唱団。9月より13回の練習を重ねて本日を迎える。

小泉ひろし [合唱指揮] 森田由子 [合唱練習ピアノ伴奏]



亀田真由美 [ソプラノ]

東京芸術大学別科修了後、洗足学園大学声楽科卒業。見島百代、中村浩子、奥村淑子、中山節一の各氏に師事。個性的なコロトゥーラ・ソプラノとして「魔笛」の夜の女王役でデビュー以来、二期会公演をはじめ多くの公演に出演している。「後宮よりの逃走」のコンスタンツェ、「ボートの王ミドリターテ」のアスパージャ、「劇場支配人」のヘルツ夫人、「シンデレラ」(マズネー)の妖精の女王等のコロトゥーラの難役に加え、「ドン・ジョヴァンニ」「オルフェオとエウリディケ」「ヘンゼルとグレーテル」「金閣寺」(日本初演)等に出演している。1988年より海外都市10ヶ国でリサイタルやコンサートに出演。また「第九」や宗教曲等の独唱の他、リサイタルも回を重ね、日本歌劇の分野でも意欲的に活動している。現在、二期会会員、洗足学園大学講師。



安保克則 [テノール]

山形大学教育学部総合教育課程音楽文化コース卒業。東京芸術大学大学院声楽独唱科修了後、現在同大学院博士後期課程に在学。声楽を林康子、ジョヴァンニ・ニコラ・ピリウッチ、高橋啓三、藤野祐一、牧野美紀子、千葉いづ子等の各氏に師事。これまでにオペラ作品では、「カルメ」(ピゼー)のドン・ホセ役、「サラマンカの友人たち」(シューベルト)のトルス伯爵役(演奏会形式)、「ドン・ジョヴァンニ」(モーツァルト)のドン・オッターヴォ役、「フィガロの結婚」(モーツァルト)のドン・バジリオ役に出演。また宗教作品では、「ハ長調ミサ(戴冠ミサ)」(モーツァルト)、「メサイア」(ヘンデル)、「長調ミサ」(シューベルト)、「エリヤ」(メンデルスゾーン)(抜粋)、「スターバ・マテル」(ロッシーニ)、「第九」(ベートーヴェン)のソリストとして出演した。日本声楽家協会研究員、日本声楽アカデミー会員。



辻宥子 [アルト]

国立音楽大学卒業、同専攻科修了。エリザベット・佐々木成子、武岡龍代、西内静に師事。1969年、第4回民音コンクール第2位入賞。同年次ウーレンに留学。ウーレン国立音楽大学にてE・ヴェルバ、A・コロ、W・シュタイブル教授に師事。1970年、ミュンヘン音楽コンクール第3位。1971年、バルセロナのマリア・カナルス・コンクール第2位、オランダのヘルゲンボッシュ・コンクール第1位入賞。国際ゴッタルド・コンクール第2位入賞。その間、各地でバッハの「ロ短調ミサ」、「ヨハネ受難曲」、ロシーニの「スタハ・マテル」、ド・マルタンの「トリスタンとイゾルデ」などを歌うほか、RCAでラモールの「カステルとポルクス」、ヘンデルの「エダスマカベウス」をレコーディングし、1975年頃に帰国。コンサートではマラーの「交響曲第2番」、バッハの「マタイ受難曲」、ベートーヴェンの「交響曲第9番」、ヘンデルの「メサイア」、エルガーの「キングダム」などをN響、東フィル、東響、京響、札幌などと協演。オペラでは、「マクベス」のマクベス夫人をはじめ、「ヘンゼルとグレーテル」の魔女、「マイスター・ジンガー」のマツグレーナ、「ファルスタッフ」のタキクリー、「ジークフリート」のブリュンヒルデ、「ワルキューレ」のブリュンヒルデ、「カレリヤルステイカーナ」サントゥツァを見事に歌い、その音楽性が高い評価を得る。二期会会員、フェリス学院大学音楽学部教授。



今尾滋 [バリトン]

1966年東京生まれ。早稲田大学法学部卒業後、東京芸術大学声楽科入学。同大学院博士課程を修了し、博士号(音楽)を取得。京都オペラコンクール3位。フタバベスト音楽コンクールのファルスタッフ部門で2位となり、副賞としてヴェローナのチアト・フランコ・ニコニコにおけるファルスタッフ公演に参加し、レナート・ブルゾンのアンダースタディとして研鑽をつむ。《フィガロの結婚》、《魔笛》、《ボエーム》、《トワイライト》、《リゴレット》等の多くのオペラに出演する他、《第九》、《カルミナ・ブрана》、《クリスマス・オプエラ》などの宗教曲のソリストもつとめる。平成9年度文化庁在外研修員としてイタリアに留学。98年にはフィナーレ・エミリアのチアト・ロンチアーレで《ドン・バスカアーレ》のマラテスタ役を歌い、好評を博した。二期会会員。イタリア・モンテカルーレ・オペラアカデミー、メンバー。ホールオペラアカデミー、メンバー。日本ロッシニ協会会員。東京芸術大学非常勤講師。日本声楽アカデミー会員。著書(共著)に「2000CD アリアで聞くイタリアオペラ」(立風書房)がある。

